

24. 昭和26年度第三部研究報告

林 知 巳 夫

1. 研究目標は統計数理^{*}の確立と云ふことであるが、これを主として社会現象への応用と云ふ面から研究してゐるのである。研究の方向は、

- (イ) 確率論の基礎
- (ロ) 調査法理論と応用(調査法)
- (ハ) 現象の *formulation* , 定質的なものの数量化(量であらへられてゐるものも *Valid* の立場からあらためて数量化することをも含む)
- (ニ) 分析法, 予測法
- (ホ) 特に検定法, *non-parametric* ; *order statistic* 又、検定理論の基礎

に向けられてゐる。

問題を取りあつかひ、理論を構成し検討してゆくとき、我々としては、

- (i) . . . は如何なる意味をもつか、何を具体的に(広義)意味してゐるのであるか、統計数理の立場から言つて如何なる意義、価値をもつものであるか
- (ii) . . . は如何に役に立つものであるか、いかに現実的に有効なものであるか。

の二点を軸として考へてゆくのである。

^{*} 註. 統計数理とは科学的にそして妥当性の立場に立つて現象を *formulate* し、それらをしらべ、分析し、綜合し、解釈してゆく方法(広い意味)乃至はその *process* 総体を言ふものである。

2. 以上の立場から研究をすすめてみるのである。成果は、すでに永野、青山によつてのべられてあるが、全体としてとりあげられた問題は、「社会対策のための数量化問題」として行つた選挙における予測の問題、「全国市町村層別の問題」としてとりあげられた全国市町村の種々の面よりする特性の調査、分析、及び各種調査に有効な層別のためのカード作成である。

3. 我々のところで取りあげた具体的問題は

鶴岡市言語調査の分析（調査法と数量化）

假釋法予測の問題（予測法と数量化）

火災危険度予測の問題（調査法、予測法と数量化）

態度測定の問題（数量化）

学力調査の問題（調査法と数量化）

質問法の問題（数量化、青山氏の調査の一部として行つた。）

である。これに關聯した理論的諸問題をも取扱つた。

（上述括弧内は研究の狙ひ）